

## 論文審査の要旨

報告番号	総研第 680 号	学位申請者	宇都 奈々美
審査委員	主査	橋口 照人	学位 博士 (医学・歯学・学術)
	副査	西尾 善彦	副査 堀内 正久
	副査	郡山 千早	副査 鷺山 健一郎 (

**Survey of problems in Kampo curriculum and the need for interdisciplinary collaboration education in Japanese medical, pharmacy, dental, and nursing departments**  
 (日本の医学科・薬学科・歯学科・看護学科における漢方教育の問題点と学際的連携教育の必要性に関する調査)

漢方治療における多職種連携を実現するためには、学際的に連携した教育システムが必要である。本研究の目的は、日本の大学における漢方授業の現状を調査し、各学科が抱える問題点や学際的な連携体制の必要性を明らかにするとともに、新しいカリキュラムの内容を検討することである。

日本国内の医学科・薬学科・歯学科・看護学科の漢方講義担当教官ならびに学務担当事務に、各大学で実施されている授業実態ならびに今後の実施希望、学際的連携に関するアンケートを送付・回収し、解析した。結果、本研究では以下の知見が明らかにされた。

- ① 医学科は臨床例の実施率が高く、授業方略のバリエーションが豊富であった。講師不足を特に漢方カリキュラムにおける問題点として感じている傾向が示された。今後、学生のモチベーションを高める為、更にアクティブラーニングを取り入れた授業の実施を希望している。また、生薬・煎じ方の実施率が高い薬学科との連携ならびに、看護学科との服薬指導における連携を希望している傾向が示された。
- ② 薬学科は授業時間数が他科に比べて多く、生薬・煎じ方・服薬方法などの実施率が高い。医学科と同様にアクティブラーニングを取り入れた授業の実施を希望している傾向が示された。漢方カリキュラムにおいて「問題点はない」とする一方、臨床例に関する授業実施率が低く、今後の実施希望としても臨床例を挙げている。結果、臨床例を豊富に持つ医学科との連携を希望している傾向が示された。
- ③ 歯学科では漢方カリキュラム実施率は70%に留まり、授業方略も講義に偏っている傾向が示された。漢方カリキュラムにおける臨床例の実施率は低く、今後臨床例の実施を希望している。臨床例を豊富に持つ医学科と、生薬の知識を持つ薬学科との連携を希望している傾向が示された。
- ④ 看護学科では漢方カリキュラム実施率が22%と低く、授業時間不足を特に問題点としていた。看護師として必要な漢方における基礎的な内容・服薬方法の実施を希望しており、医学科・薬学科との連携を希望している傾向が示された。

本研究は、医学科・薬学科・歯学科・看護学科の漢方カリキュラムに関する初の一斉調査研究であり、各学科の現状ならびに今後の学際的連携体制の構築の必要性を明らかにした点において非常に興味深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。